

令和 6 年 5 月 31 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00597

研究課題名（和文）地域の日本語教室で学ぶ学習者向け日本語学習アドバイジング実践に向けた調査と教材化

研究課題名（英文）Research and creation of instructional materials for the practice of Japanese language learning advising for learners in community-based Japanese language classes.

研究代表者

瀬井 陽子（SEI, Yoko）

大阪大学・国際教育交流センター・特任助教（常勤）

研究者番号：00868341

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究において、事業期間三年間を通して得られた成果は下記の3つである。1) 言語学習アドバイジングについての文献調査を行い、日本語教育分野における自律学習の概念を調査し、具体的な実践方法を整理した。2) 日本語学習者が自己主導型で学ぶ過程を記述し明らかにした。3) 地域の日本語教室でアドバイジングを導入する方法を探ることを目的にボランティアへのインタビューを実施し、導入するための課題を整理した。また、これらの結果を踏まえてボランティアを対象とした講座を2年目と3年目に実施した。これらの研究と実践を通して、多様な学習者に対応できる新たな学習支援のありかたを提案したことが本研究の成果であると言える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学習者の主体性に焦点を当てた日本語学習支援の研究・実践は、これまでも行われてきたが、言語学習アドバイジングは、これまで教育機関で調査・研究されることが多かった。地域の日本語教室における導入を視野に入れて調査研究した点で新規性があると言える。また、地域の日本語教室については、活動形態、学習内容や方法、支援者の育成などに焦点を当てた研究が多かったが、これまで着手されてこなかった領域について新たな知見を得た点で学術的意義があると言える。さらに、地域の日本語教室で活動する支援者が取り入れることができる形にした点で社会的意義があると言える。

研究成果の概要（英文）：The following three results were obtained through the three years of the project. 1) From the literature review on language learning advising, the concept of self-directed learning in the field of Japanese language education was investigated and specific practices were identified. 2) Described and clarified the process of self-directed learning by Japanese language learners. 3) Conducted interviews with volunteers with the aim of exploring ways to introduce advising in community Japanese language classes, and summarized the issues to be addressed in order to introduce the system.

In addition, based on these results, a course for volunteers was conducted.

Through these studies and practices, a new approach to learning support that can respond to diverse learners was proposed, which can be said to be the outcome of this study.

研究分野：日本語教育

キーワード：日本語学習 言語学習アドバイジング 学習者オートノミー 地域の日本語教室 言語学習ポートフォリオ

様式 C-19、F-19-1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究の背景について日本語学習支援、言語学習アドバイジング、地域の日本語教室の3つのキーワードを用いて述べる。

日本語学習支援

1990年以降、教育の現場では教育パラダイムが変換し、知識は教育者から学習者へと伝達されるものという教育者中心の考え方から、知識は社会的な営みの中で学習者によって構成されるものという学習者主体の考え方へと変化していった。それにより、学習の支援とは、学習者が主体的に学習できる状況を作ることだけでなく、学習者自身が問題を発見し解決できるよう、学習者と協働して問題発見の手助けをすることも含まれるという認識が広まった。日本語教育でも、学習者主体の教室活動や自律的な学びの支援に注目が集まり、日本語学習支援のあり方に関する研究が広く行われるようになった。

言語学習アドバイジング

第二言語習得研究の文脈において、前述のような多様化する学習者に対し、学習者主体の教室活動を行い、自律的な学びの支援をするうえで、言語学習アドバイジングは、様々な学習者への対応方法として有効な手段である。言語学習アドバイジングは「アドバイスをすること」ではなく、学習者が自分の学習について振り返り、計画を立てるのを助けるために質問していく活動である。しかし、第二言語教育の現場では言語学習アドバイジングの実践や研究はまだ十全とは言えない。

地域の日本語教室

日本国内の日本語教育において、地域の日本語教室が果たす役割は大きい。文化庁の「平成30年度国内の日本語教育の概要」からも大学や日本語学校などで日本語教育を受けている人数は在留外国人の約10%に過ぎず、「生活する外国人」の日本語を支援するうえで地域の日本語教室が重要であることが明らかである。しかし、地域の日本語教室では一部の団体職員やコーディネーターを除き、ボランティアによって支援活動が支えられているのが現状である。このような現状にも関わらず、日本語教育に関する専門知識を有しないボランティアと学習者に「教える人—教わる人」という構図が出来上がっていること、ボランティアの経験年数により専門知識が異なることなどが問題点として挙げられてきた。解決策として、ボランティアが「教える人」として学習者に関わるのではなく、「支援者」として関わる方法が模索されている。

このような背景から、地域の日本語教育に関わる人向けに、日本語学習アドバイジングをどのように進めれば良いのか理解でき、実践できる教材があれば、支援者育成が可能となり地域の日本語教室の問題を解決するための一端を担うことができると考え、本研究を開始した。

2. 研究の目的

本研究は、地域の日本語教室で学ぶ学習者の支援者が使える「日本語学習アドバイジング」のガイドラインを構築することを目的として実施した。地域の日本語教室は、在留外国人の日本語学習において重要な役割を果たしており、日本語教育の現場で学習者が主体的に学習を進められるような自律学習を支援することは研究分野の中でも重要な課題である。そこで、自律的な学習支援のために有効である「アドバイジング」を地域の日本語教室で導入するために、調査・研究を実施した。

3. 研究の方法

研究の具体的な進め方は(1)文献調査、(2)日本語の学習アドバイジングを実践している教育現場における活動の調査、(3)地域の日本語教室で使える日本語学習アドバイジングのツールとガイドライン作成、(4)日本語学習アドバイジングのツールを使った支援者へのインタビューの実施とその分析である。

(1)は、自己主導型学習、言語学習アドバイジング、地域の日本語教室、などの文献を調査し、研究の枠組みと課題を明確にした。

(2)は、既に日本語学習のアドバイジングが取り入れられている教育機関にて、アドバイジン

グの様子を録画し、会話の流れ・進め方・使用するツールなど、活動の詳細を記述した。

(3) は、まず地域の日本語教室の運営者やコーディネーター、支援者と面会し、言語学習アドバイジングについて意見交換を行った。その結果、アドバイジングを行うために、教室に来たばかりの学習者がそれまでの学習背景を支援者に伝えることができるツールが必要であることが明らかになり「日本語学習支援者と一緒に使える日本語学習ポートフォリオ」を作成した。

(4) では、地域の日本語教室で活動するボランティアを対象とした講座で、「日本語学習支援者と一緒に使える日本語学習ポートフォリオ」を用いて、支援者に言語学習アドバイジングについての導入を行った。その際、まずボランティアが普段どのような活動をしているかのヒアリングを行い、言語学習アドバイジングについての説明を行い、ポートフォリオの使い方を説明した。その後、支援者と面会し、ポートフォリオの使い方についてインタビューを行った。インタビューは録音し、その内容を分析した。

4. 研究成果

3. の(1)～(4)の過程で得られた研究成果を、4本の論文にまとめ、6件の学会発表にて報告した。事業期間三年間を通じた研究の成果は以下の通りである。

まず、言語学習アドバイジングを軸に主体性と自律性の概念を整理する目的で、海外および国内の文献調査を行い、日本語教育分野における自律学習の概念を調査し、具体的な実践方法を整理した。日本語教育における1990年代以降の文献調査では、社会的主体性を持った市民の育成を目指す用語「学習者主体」と、生涯学習としての言語教育・学習研究の潮流にある「学習者オートノミー」「学習ストラテジー」の違いを明らかにしたうえで、これからの自律的な学習促進の支援にはメタ認知的な気づきを促すアドバイザーや教師の存在がより一層重要になることを主張した。

次に、日本語学習者が自己主導型で学ぶ過程を記述し明らかにした。既に日本語学習のアドバイジングが取り入れられている日本国内の日本語教育機関にて、言語学習アドバイジングはどのように行われているのかを明らかにするため、アドバイジングが行われたワークショップを録音および参与観察し、会話の流れ、進め方、使用するツールなど、活動の詳細を記録した。その結果、自己主導型学習を行った学習者が学習ストラテジーを駆使して目標を達成させたことを明らかにし、学習者オートノミーの実践に加え、学習者が既に持っていた知識により自己主導型学習が促進されたことを明らかにした。

そして、地域の日本語教室でアドバイジングを導入する方法を探ることを目的にボランティアへのインタビューを実施し、導入するための課題を整理した。インタビューでは複数の協力者が難しさを感じる場面について話していたことから、収集したデータを主題分析し、学習者の本心を知るための難しさというテーマについて記述した。今後の課題として、教室におけるボランティアの役割などに着目する必要があることを述べた。

さらに、これらの結果を踏まえてボランティアを対象とした講座を年度末に行った。

これらを通し、調査によって「日本語学習アドバイジング」を地域の日本語教室で支援者が使っていくためのツールを作成し、研究を通して明らかになったことを、実用的な形にすることで、多様な学習者に対応できる新たな学習支援のありかたを提案したことが本研究の成果であると言える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 瀬井 陽子	4. 巻 28
2. 論文標題 地域の日本語教室における言語学習アドバイジング：学習者の「大丈夫」という言葉からの問題提起	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 多文化社会と留学生交流：大阪大学国際教育交流センター研究論集	6. 最初と最後の頁 1～9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/94685	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 瀬井 陽子	4. 巻 4（2）
2. 論文標題 多様化する日本語学習者のための自律学習支援ワークショップ設計と可能性	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 JASAL journal	6. 最初と最後の頁 4～16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 瀬井 陽子	4. 巻 27
2. 論文標題 日本語教育における「自律的な学習」促進の実践と支援：1990年代以降の議論をたどる	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 多文化社会と留学生交流：大阪大学国際教育交流センター研究論集	6. 最初と最後の頁 1～10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/90839	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 瀬井 陽子、Sei Yoko、セイ ヨウコ	4. 巻 26
2. 論文標題 SALCにおける自己主導型学習促進のセッションでどのような目標到達過程が語られたのか：日本の大学院で学ぶ留学生のケース・スタディ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 多文化社会と留学生交流：大阪大学国際教育交流センター研究論集	6. 最初と最後の頁 1～12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/86443	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 瀬井陽子
2. 発表標題 地域の日本語教室においてボランティアが学習者主導型活動を試みる背景 7名のボランティアへのインタビューから
3. 学会等名 言語文化教育研究学会, 第10回年次大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 宮本敬太, 中井好男, 瀬井陽子
2. 発表標題 ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンめぐるスローガンの趣向と陥穽
3. 学会等名 言語文化教育研究学会, 第10回年次大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 宮本敬太, 中井好男, 瀬井陽子
2. 発表標題 「多文化共生」はいかに消費されているのか その登場と歴史的経緯から考える
3. 学会等名 シンポジウム『日本社会におけるダイバーシティ研究の最前線：インクルーシブな社会の実現を目指して』
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 ABE, Maya & SEI, Yoko
2. 発表標題 Language Learning Portfolio Workshops at OU Multilingual Plaza
3. 学会等名 The Japan Association for Self-Access Learning 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 瀬井陽子
2. 発表標題 学習背景が異なる日本語学習者が集まる自己主導型学習のワークショップはどのように進化したのか
3. 学会等名 言語文化教育研究学会 第8回年次大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 瀬井陽子
2. 発表標題 SALC (OUマルチリンガルプラザ) における課外での自律的な日本語学習サポートの 実践報告
3. 学会等名 大阪大学第6回豊中地区研究交流会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>日本語学習支援者と一緒に使える日本語学習ポートフォリオ (2024版) https://researchmap.jp/ysei/works/45850330 日本語学習支援者と一緒に使える日本語学習ポートフォリオ (試作版) https://researchmap.jp/ysei/works/36846308</p>

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------